

郡山市子ども・子育て会議意見交換会 会議録

【日時】

平成28年6月9日（木）午後2時00分～午後3時20分

【場所】

こども総合支援センター（ニコニコこども館）3階 研修室

【次第】

- 1 開会
- 2 会長あいさつ
- 3 事務局職員紹介
- 4 議事
 - (1) 平成28年度「郡山市ニコニコ子ども・子育てプラン」実施計画の進行管理について
 - (2) 平成28年度「仮設住宅の再編等に係る子供の学習支援によるコミュニティ復興支援事業」の目的設定等について
 - (3) その他
- 5 その他
- 6 閉会

【出席委員】

10名（敬称略）

吾妻 利雄、遠藤 重子、大竹 亜紀、大和田 新、加藤 友和、菊池 信太郎、佐藤 広美、滝田 良子、安田 洋子、横山 智恵

【欠席委員】

10名（敬称略）

猪越 京子、遠藤 智子、大川原 順一、太神 和廣、笠井 修、源後 正能、鈴木 宮子、平栗 裕治、保住 キミ、峯 淳子

【事務局職員】

19名

こども部：佐々木 修平（部長）、鈴木 弘幸（次長）、渡辺 伸市（次長）、伊藤 綾子（こども部次長兼こども育成課長）
こども未来課：塚原 馨（課長）、遠藤 尚孝（主幹兼課長補佐）、石田 佐和子（こども企画係長）、伊東 惣市（青少年・放課後児童育成係長）木村 祥一（こども企画係主査）
こども支援課：滝田 昌宏（課長）、伊藤 克也（課長補佐）、佐藤 昭一（主任主査兼子育て支援係長）、柳沼 洋史（主任主査兼こども家庭相談センター所長）、山田 てるみ（主任技査兼母子保健係長）
こども育成課：熊田 久美子（主幹兼課長補佐）、片平 力也（課長補佐）、井上 薫（管理係長）、佐久間 由三子（認定給付係長）、橋本 徹（保育所係長）

【配布資料】

- 資料1 平成28年度「郡山市ニコニコ子ども・子育てプラン」実施計画
資料2 平成28年度「仮設住宅の再編等に係る子供の学習支援によるコミュニティ復興支援事業」の目標設定等について
資料 待機児童に関する資料（（3）その他で配布）

1 開会

(遠藤主幹)

ただいまより「第18回郡山市子ども・子育て会議」を開催するが、本日は都合により10名の委員が欠席しており、郡山市子ども・子育て条例第5条第2項の規定を満たしていないことから「意見交換会」として開催することを御了承いただきたい。

2 会長あいさつ

【滝田会長から以下のとおりあいさつがある。】

- ・国が発表した合計特殊出生率が「微増」となり、郡山市もおそらく増加したと思われる。
- ・子どもを社会で支えていくことは当然であり、本市においては「郡山市ニコニコ子ども・子育てプラン」を基礎として何ができるのかということを考えていくべきである。
- ・全国的に待機児童が話題となっており、郡山市においても相当数いると考えているので、待機児童等の問題を主軸におきながら安心できる子育て環境を考えていくべきであり、本会議にもそれが求められている。
- ・子どものしつけ方が分からない保護者がおり、子どもの人権についても委員改選までの短い間ではあるが審議していければと考えている。
- ・郡山市職員労働組合から委員宛てに文書が送られてきたが、この件について事務局で何か把握しているかを後ほど説明してほしい。

3 事務局職員紹介

(遠藤主幹)

本日は、本年度初めての会議開催であることから、新たに転入された事務局職員を紹介する。

【伊藤次長、塚原課長、滝田課長、片平補佐、石田係長、柳沼所長、遠藤主幹を紹介する。】

4 議事

【遠藤主幹から、本日使用する資料の確認がある。】

(遠藤主幹)

本日、傍聴を希望する方が6名おり、郡山市附属機関等の会議の公開に関する要領の規定では会長が許可することとなっているがいかがか？

(滝田会長)

特に支障がないと思われるので許可する。

<傍聴者が入室する。>

(遠藤主幹)

それでは「議事」に移りたいと思うが、以降の会議の進行については、郡山市子ども・子育て会議条例第5条第1項の規定により、滝田会長に議長をお願いする。

(滝田会長)

それでは、議長を務めさせていただく。

早速だが、「(1) 平成28年度「郡山市ニコニコ子ども・子育てプラン」実施計画の進行管理について」事務局から説明願う。

【木村主査から、資料1に沿って説明がある。】

(滝田会長)

ただいまの事務局からの説明について、意見や質問はあるか？

(菊池委員)

この事業評価は「回数をこなした評価」となっているようだが、事業の有効性など内容の評価はしないのか？

(事務局：木村主査)

明確な数値目標を計画に上げている事業については「数値を満たしたか」が評価のベースとなってくるが、数値では測れない事業もある。

この表には出てこないが、評価自体は総合的な内容となっている。

(事務局：塚原課長)

補足になるが、これらの事業は「郡山市ニコニコ子ども・子育てプラン」に計上されている市の事業であるが、これとは別に市では「事務事業評価」という手法で個別事業について評価する機会を設けている。

事務事業評価の中では、参加者数の動向や事業の成果等を加味して評価を行っている。

この表には詳細は表記されていないが、違った切り口で評価している。

(滝田会長)

全庁的に評価をして事業の見直し等の検討をしているということか？

(事務局：塚原課長)

そのとおりである。

ちょうど今の時期になるが、平成27年度に行った各事務事業について、マネジメント表を作成し、行政マネジメント課において個別事業の評価と今後の事業のあり方についての検討作業に着手する。

秋頃には事務事業の評価結果が明らかになるものと思われる。

(滝田会長)

その他、質問や意見はあるか？

(滝田会長)

各自持ち帰り、改めて内容を確認し、疑問点があれば事務局へ連絡するというところで、この議題を終了する。

それでは次の議題「(2) 平成28年度「仮設住宅の再編等に係る子供の学習支援によるコミュニティ復興支援事業」の目標設定等について」事務局から説明願う。

【木村主査から、資料2に沿って説明がある。】

(滝田会長)

ただいまの事務局からの説明について、意見や質問はあるか？

(安田委員)

「震災後子どものケアプロジェクト」の課題に、外遊びの時間について「ほとんど遊ばない」と回答したパーセンテージが載っているが、その割合に驚いている。

ほとんど遊ばない理由までアンケートでは聞いているのか？

(菊池委員)

震災後子どものケアプロジェクトチームリーダーを務めている私の方でアンケートを実施しているが、こちらは、保育所や幼稚園に通園している年長さんたちが平日の保育所・幼稚園が終わった後、外で遊んでいるかについて聞いたものである。

「1時間以内」か「ほとんど運動しない」と回答している子どもがほとんどであるが、保育所だと帰る時間が遅いし幼稚園でも預かり保育をしているところがある、又は習い事にそのまま通うといったことがあるので、数値的にこういうものになったものと思われる。

(安田委員)

そうすると、ほとんどのお子さんが朝から夕方まで保育所や幼稚園に通っているため、終わった後は運動しないが、通園しているときには運動しているということか？

(菊池委員)

そうである。

この統計はあくまで退園後の運動状況についてである。

(吾妻委員)

「震災後子どものケアプロジェクト」についてだが、認可保育所長会として事業に参画しており、子どもの運動あそびについてはずっと取り組んできた。

所長会としては、今年度当初に運動あそびの実態調査を実施し、5月の所長会でアンケートのとりまとめを行った。

それと同時に、運動能力テストの子ども一人ひとりの結果を管理するソフトを組み上げ、面談会などでデータを活用し、大変喜ばれているところである。

また、郡山市では「セーフコミュニティ」に取り組んでおり、その中の「こどもの安全対策委員会」では、データの的に子どもの怪我の原因として転倒が多いことから、小さい頃から運動あそびをすることによって転倒防止につながればと考えている。

この事業が今後も継続されることにより、子どもたちの運動能力の改善につながることから、素晴らしい事業だと思う。

(遠藤委員)

年齢に応じた運動をさせ、体力をつけさせることは重要である。

子ども一人ひとり違うので、その子にとって最善の対応をして子どもの体力増強につなげていかなければならない。

私立保育園連絡協議会としても、子どもたちのために、協議会に加盟していない認可外保育施設としっかり連携していきたい。

また、保育に関する勉強会等にも時間を作り積極的に参加していきたい。

(滝田会長)

今回は意見交換会ということなので、地域子ども教室も含めて何か意見はないか？

(大竹委員)

子どもが興味を持っても、親の方が忙しくて連れて行けないケースがあるので、親側の姿勢が外遊びの時間の減少につながっていると思う。

子どもだけではなく、親にも地域行事に興味を持ってもらえるようアピールする必要もある。まずは、親にアピールすることが大事だと思う。

(大和田委員)

保護者の心配が数値に現れているということだと思うが、子どもを預かっている現場で働いている職員の方が抱えている不安を解消することも必要である。

放射線量を数値で見ても、安全かどうかはそれぞれの人が判断している。

その中で保護者から「なぜ遊ばせるのか」と聞かれたときにきちんと答えられるよう職員に教えていかなければならない。

そういった地域コミュニティを作ることも必要かもしれない。

(加藤委員)

大竹委員が言ったとおり、地域で開催する行事に子どもが参加したいと言っても親が行かなければ参加できないこともある。

まずは親へのアピールを考えるべきである。

また、外遊びの時間について、未就学児童のパーセンテージは出ているが、小学生の割合のデータはあるのか？

(菊池委員)

正確な数字は手元にはないが、小学生のほうがもっと遊んでいない。

たしか7～8割が「1時間以内」だったと思う。

文科省では「60分遊ぶこと」を推奨しているが、それを満たしていない子どもがほとんどである。

(横山委員)

これらの事業は非常に有意義だと感じている。

それぞれの事業の課題の捉え方、それに対する目標、目標達成のための活動と効果測定方策について、なかなか良くできていると思うので、このとおり遂行していただきたい。

(佐藤委員)

親子向けの講座を開催したときに、子どもは体をしっかり動かして遊びたい、親は遊ばせたい、遊ばせ方を学びたいという要望がある。

しっかりと体幹を鍛えて、体力づくりができる運動あそびができればと考える。

(滝田会長)

震災後子どものケアプロジェクトについては、菊池委員が中心に立って進めているので、機会があればその辺の話も聞きながら、これらの事業についてこの会議で評価・検証を実施していきたい。

国からは評価・検証についてのガイドラインは出ているのか？

(事務局：木村主査)

現時点では、具体的な評価検証方法について示されていないが、ガイドライン等が発出された際は、速やかに委員の皆様にお知らせし、適正な評価・検証を行えるようにしたい。

(滝田会長)

以上で、今の議題を締めさせていただきます。

続いて「(3) その他」だが、委員の皆様から何かないか？

【特になし】

(滝田会長)

それでは郡山市職員労働組合からの文書について、事務局から説明願う。

【伊藤次長から以下のとおり話があり、鈴木次長から地方交付税の概要について説明がある。】

- ・ 5月12日付けで郡山市職員労働組合から「公立保育所の施設整備費について（情報提供）」という文書が発出された。
- ・ こども部としては、委員の方からの情報提供により把握した。
- ・ 内容としては「補助金がないから公立保育所の整備ができないのではなく、補助金制度から交付金制度に変更になっただけで、財源は引き続き確保されていることから、公立保育所の民営化については慎重に検討してほしい」というものであった。

（滝田会長）

その他、事務局から何かあるか？

【木村主査から委員改選についての連絡がある。】

（滝田会長）

その他、何かあるか？

（吾妻委員）

平成28年度の待機児童数やそれに対する対策など、行政として進めようとしている取組みについてここでお聞かせいただきたい。

【事務局から「待機児童に関する資料」を配布し、それに沿って伊藤次長が以下のとおり説明する。】

- ・ 待機児童数は厚生労働省からの通知に基づいて算出しており、本市における待機児童数は平成28年度で52人である。
- ・ 国からも待機児童解消についての取組みを推進するよう強く要請されている。
- ・ 本市としては受け皿の整備と保育士の確保について関係機関と連携を図って進めているところである。

（安田委員）

継続して入所を希望している児童数について、詳しく教えていただきたい。

（伊藤次長）

本年4月で言えば、国の基準に基づいて算出している待機児童数は52人となっているが、実際に継続して入所を希望している児童は約300人以上いるが、できるだけその人数を少なくできるように取り組んでいく。

（滝田会長）

本日の議題が全て終了したので、議長の職を解かせていただく。

5 その他

【伊藤補佐から本年度版の「子育てハンドブック」と「子育て支援事業案内」を配布する。】

（遠藤主幹）

以上を持って、郡山市子ども・子育て会議意見交換会を終了する。

以 上